

「コラ、熱いやないか、少しうめて呉れ」

「無理を云ふ人やなア、ヘエ〜……………」

「足を拭いて呉れ」

「手拭は」

「無いわい、汝のんで拭け」

「ヘエ〜」

「ヘエ〜何を吐してけつかるね、顎を蹴り上げたるか」

「イヤモウ結構だす」

「遠慮さらすな」

「イ、エ遠慮さらします、顎蹴り上げられてどないになりますかいな」

「ざまみされ腰の無い奴やな、文句吐したら二ツ三ツボン〜と張倒して内へ歸んでガサ〜と茶漬を喰ふてコロツと寝たら胸がスウとするねがな、ア、うどん屋吃驚して逃げて行きよつた、仕方がない歸んで婆と喧嘩をしたろ……………」

と亂暴な男で、内ではお母さんが晝の疲れで柱に凭れて居眠つて居ります處へ

「婆今歸つたぞ」

「オ、兄歸りやつたかへ、甚い早かつたな」

「何を吐してるね、平常より遅いのぢや、寝さりやがつてからに」

「兄堪忍しとくれや、つい晝の疲れで」

「コラ晝の疲れ、晝何ぞ疲れる様な事を仕て居るか」

「明日から起きて待つてるで」

「あたりまへぢや」

「兄、御膳をたべやるか」

「仕事から歸つたら飯喰ふのに極つてるわい」

「さあ〜食べやれ」

「コラ冷飯に香物やないかい、なんで温飯に肴を付けさらさんね」

「妾ぢやとて可愛い其郎の事じやもの温い御飯に魚のお菜を附けたいのぢやが兄が小遣を呉れので」

「二言目には小遣ひ小遣ひと俺の働くのを當にせんと汝も何なと小遣ひ儲けをせい」

「そら兄私ぢやとて仕事有ればする」

「するか、するなら濱へ頼んだる依つてに明日から仲仕に行け」

「兄私の様な者が仲仕に行ても役にあやせん」